

総圃場面積が拡大

青果物は前年比2割増

日本GAP協会

JGAP認証農場の総圃場面積が拡大し、青果物においては前年から2割増加していることが、日本GAP協会の調査により明らかとなった。

農産(青果物、穀物、茶)分野のJGAP認証農場の総圃場面積は、2026年3月末時点で4万651㌥となり、前年の3万6448㌥から約1割拡大した。とくに青果物の圃場面積(1万9915㌥)は、前年(1万6257㌥)比で2割以上増加。集計を開始した18年(3221㌥)からは、約6倍の規模に広がっている(上表)。

一方、認証農場数は4757農場、認証件数は1737件で、いずれも前年(4961農場、1748件)よりわずかに減少した。総圃場面積は拡大していることから、1認証農場あたりの規模は拡大していることがうかがえる。26年3月末時点の平均圃場面積は、穀物38・8㌥、青果物7・8㌥、茶4・7㌥となった。

なお、ASIA GAPを含めた都道府県別の認証農場数(26年3月末時点)上位は、静岡県、鹿児島県、福島県、北海道、熊本県、茨城県の順となっている。品目別の

認証数は、キャベツ、トマト、リーフレタス、ミニトマト、レタス、ネギなどが上位に挙がる。ASIA GAPについては、承認を受けているGFSI(世界食品安全イニシアチブ)の要求内

容が農業の実情から離れてきていることや、農業の認証制度の主流が持続可能性に移ってきていることを踏まえ、28年に終了したJGAPに一本化される予定。



※日本GAP協会調べ、各年3月末時点

環境保全や人権尊重と